

英国ヘルスケア通信 発行にあたり、

この度、日本クラブでは、これまでの「診療所だより」に代え、引続き会員皆様へ英国における医療に関する有用な情報を提供させて頂くため、当クラブ法人会員であるジャパングリーンメディカル様のご協力を頂きながら、新たに「英国ヘルスケア通信」を発行させて頂く事と致しました。

今後、会員皆様からのご意見ご要望なども踏まえながら、より良い紙面づくりをして目指して参りたいと存じますので、何卒ご愛護を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

英国における健やかな生活の一助となれば幸いです。

日本クラブ 診療所運営委員会

会員の皆様へ

皆様に於かれましては、益々ご健勝の事とお慶び申し上げます。

私共ジャパングリーンメディカルセンターは、日本クラブ会員企業として、会員の皆様の在英生活をサポートさせて頂くべく、日本クラブクリニックの伝統を引き継ぎ、医療関連情報の提供を開始させて頂きます。

初回は、「COVID-19 Pandemicを通して見える日常診療」をご案内させて頂きます。

皆様の英国生活に多少なりともお役に立てればと存じます。

ジャパングリーンメディカルセンター

COVID-19 Pandemicを通して見える日常診療

◆ 激減した風邪診療

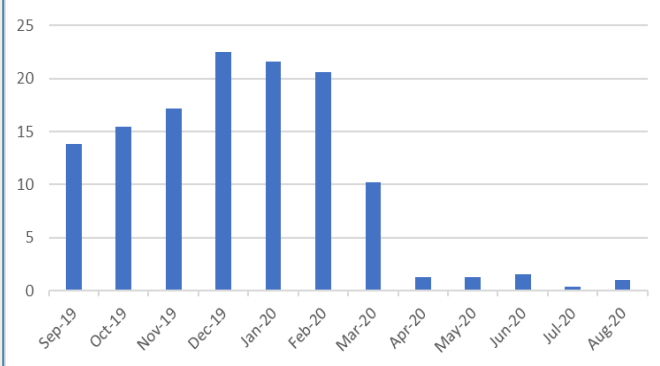
言葉の定義にもよりますが、「かぜ」の大半はウイルスが原因です。パンデミックを引き起こした新型コロナウイルスの仲間であるコロナウイルスもかぜの原因のひとつです。

詳細は省略致しますが、発熱、咳、味覚・嗅覚の低下などの症状は、頻度の差はありますが、通常のかぜでもみられるものであり、実際の見え目や診察だけでは、新型コロナウイルスによるものかそれ以外の病原菌により引き起こされているかの判断は難しいところです。

また、2020年時点での感染者の3分の1は無症状であるという報告もあることから、パンデミックの状況下において、できる限り社会の感染拡大を抑えようと共に限りのある医療資源を確保し維持するという理由から、自然軽快する「かぜ」症状を示す人は出来る限り自宅で療養して頂くという対応が世界中で徹底されました。

私達のクリニックも感染対策を徹底するため、日本式のかぜ症状に対する対面診療を制限した結果、2020年2月末頃を境に、かぜ診療の割合は激減し、その他の体調に対する診療の割合が増えました。言うまでもなく、Social distancing、手洗い、マスクなどの感染対策及びロックダウンなどの対策により感染症そのものは減少しました。

診療全体に占める風邪症状診療の割合 (%)



私共のクリニックにおけるその変化例はグラフに示す通りです。

日本人は「風邪は万病のもと」という認識に基づき、風邪症状をこじらせないために医療機関に相談するという傾向があるため、かぜ診療に制限がかかると不便な気がする方が多いかと推測します。この不便さには、風邪診療のついでに他の心配事も相談しておきたいという便利さが失われる点も含まれるでしょう。しかし皆さんが現在在住されている英国を含む欧米などで育った人にとって、風邪は自然に治るものであり医療機関へ相談するものという認識はあまりなく、風邪症状がある場合は、できる限り家で休養するという姿勢には変わりないため、かぜ診療が受けられないことが不便だという気持ちにはなりにくいようです。

このパンデミックによりもたらされた不便さに対応する解決策のひとつがビデオコンサルテーションです。

このビデオコンサルテーションが対面診療を完全に置き換えることができるということにはなりません、インターネット環境さえ整っていれば、皆様のご相談を受けるには事足りる方法として大変便利で有用です。利便性のみでなく、皆様個人そして医療者に対する感染対策の面からも有難い存在です。無論、このビデオコンサルテーションが限界というわけではなく、必要であれば対面での診察や検査に繋がっていきます。

元来、急性ウイルス性上気道炎（いわゆる普通感冒）が万病のもとであるのは、普通感冒が重症の病気へ変わっていくのではなく、熱、だるさ、のどの痛み、咳などの症状が後々に「かぜ」以外の様々な病気の初期症状と判明することもあるため、注意の意味で「万病のもと」と言われていると想像します。

従って、かぜ症状と言われるものが本当に普通感冒によるものなのかという視点での診療はパンデミックであろうとなかろうと変わらないと考えます。医療が提供すべきことは、単純に感染症を判断するための簡易の検査をすとか、薬を処方するという以前に、まず第一に、健康に問題を抱えて医療機関を利用される方に何らかの形で相応の道しるべを示すことであり、その方法として、ビデオコンサルテーションは大きな役割を果たしていると言えるでしょう。

私達日本人にとって最も身近に感じる風邪診療の制限ですが、ITのチカラを借りることで少しずつでも皆さんの不安を取り除き、様々な観点からの予定を立てていくことが可能ですので、「熱や咳があると医療機関へ相談できないかもしれない」という不安を和らげることは可能と存じます。

このように私たちが提供する一次地域医療において、風邪診療はパンデミックの影響を最も大きく受けている診療分野のひとつと言えますが、この機会において様々な視点から学ぶ要素は多く見受けられるようです。

◆ 激増したGP登録

従来、永住でない数年滞在予定の駐在員ご本人及びそのご家族はGP (General practitioner) 登録をすることなく、無事健康に数年の在英生活を終えられることが一般的でした。GP登録は強制ではないため、小さなお子様のワクチン、慢性疾患の受診等がなければ、あえてご利用になる必要性はさほど高くなかったのではないかと推測します。

しかし、Pandemicはこの点にも多きな変化をもたらしまし

た。COVIDワクチンの接種には基本的にNHS (National Health Service) 登録が必要となるため、ほぼ全ての皆さんがGP登録されています。そして特段の理由がなければ、無事にワクチンを接種されるなど、NHSの恩恵を受けておられます。

おそらく駐在員としての皆様のGP登録の割合はPandemic前にはかなり低率であった状況からPandemic後は100%に近いものになっていると予想します。GP surgeryの先生達は日本在住者が随分増えたという印象を持たれたかもしれません。

Pandemic下に限ったことではありませんが、GP surgeryに登録される予定もしくは登録された皆様からたびたび頂くご質問がありますので、若干ご紹介致します。

どのようにしたらGPに登録できますか？（解答例；NHSのWebsiteから検索可能です。いわゆるOnline GPへの登録もひとつの方法です）

どこのGPがお勧めですか？（解答例；口コミなどが掲載されていますが、詳細は不明です。登録予定のGP surgeryのWebsiteなどで情報をご確認下さい）

日系医療機関でGP登録が可能ですか？（解答例；日系医療機関はGPではありませんので、GP登録には該当致しません）などです。

また最も基本的な内容として、GP surgeryと日系プライベート医療機関の主な違いもご説明致します。

- GP surgery；

General practitionerとして監督機関のリストに登録されている医師による診療

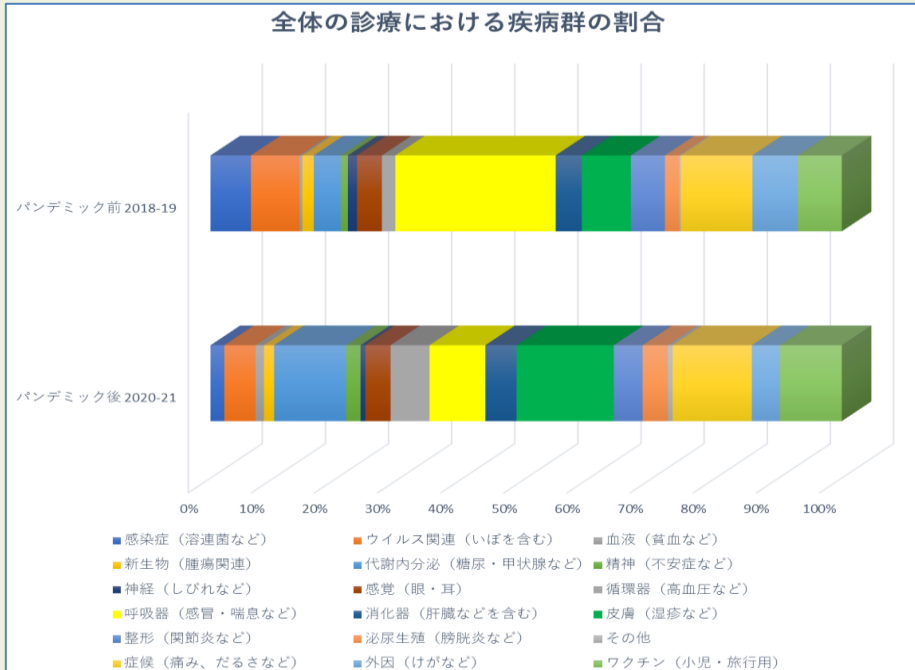
UKのガイダンスに従って行われる診療

高次医療機関への紹介はNHS病院及びプライベート病院のいずれも可能

基本的には自己負担なく利用可能（ビザ申請時のHealth surchargeを除く）

- 日系プライベート医療機関；

日系プライベートクリニックのドクターとして監督機関に登録されている医師による診療。UK等のガイダンスを基本に、日英の橋渡しの役割の診療。



高次医療機関への紹介は基本的にプライベート病院のみ (NHSは救急外来へ依頼)

診療費用は全額利用者負担

世界中でPandemicはまだ継続しておりますが、このPandemicを通して公的医療の重要さや素晴らしさをNHSという仕組み及び組織を通じて、改めて認識された皆様も多いのではないかと存じます。NHS、プライベート共に、その利用経験から良い話、悪い話様々な感想は耳に致しますがPandemicを契機に登録されたGP surgeryと日系プライベート医療機関の違いを大まかに把握して頂き、ご自身の健康にとって最適な活用方法を検討して頂ければと存じます。

◆ 激変しない地域医療

先に挙げさせて頂いた内容は「激減」と「激増」ですが、COVID19のもとでも「激変しない」例をお示し致します。下のグラフは、私が直近1年間で拝見した疾患の種類とその構成です。溶連菌などを含む感染症、全身性のウイルス感染などを含むウイルス関連、感冒を含む呼吸器系の割合は明らかに減少していますが、他の疾患群は、その割合に多少の変化は認めるものの、その内容に大きな変化は認めません。つまり、満遍なく病気も存在し、その病気の進展をいかに管理するかという課題はPandemicの有無に関わらず継続しています。

Pandemicによるロックダウン、人口変動、感染症減少などにより診療数は減少しておりますが、Pandemic後においても皆様の体調不良の要因が多岐にわたることはご理解頂けると存じます。

Excess death (超過死亡) という言葉が一時期随分と注目されました。COVID-19以外の疾病の診療を先送りしたことや受診控えなどによりCOVID以前であれば対応できていた病気により命を落とす事例が過剰に多くなったことを示します。これを最小限に食い止める入り口のひとつが私達が担う一次医療です。

このような幅広い意味で、いわゆる町医者レベルの地域医療はPandemicによっても激変しない分野と認識しております。英国においては、即、専門家や専門病院に受診して頂けるといふわけには参りませんが、このような幅広い分野を長年にわたり拝見しているノウハウが、日本への渡航もままならない状況下での皆様の英国における健康管理のガイドとしてお役にたつのではないかと考えております。

以上、ご参考になれば幸いです。

ジャパングリーンメディカルセンター
高谷義博 (たかや よしひろ)